

# 資源循環、自然を知り技術磨く



サントリー白州蒸溜所の樽貯蔵庫

「水と生きる」。サントリーホールディングス(HD)の企業理念を体現するよう工場が、山梨県北杜市にある。白州蒸溜所とそれに付随して建設された天然水工場は、豊かな自然が育む「水のおいしさ」を美観させてくれる。水資源保全を中心に同社の壮大な

## サントリー 白州蒸溜所 (北杜市)

## 最上位の環境方針、水資源保全実践

Dコーポレートサステナビリティ推進本部の内貫研一専任部長は語る。同社では環境基本方針を1997年に制定(2015年に改定)しているが、そのなかで、①水のサステナビリティの追求②生物多様性保全への取組③インベスティメントによる資源の有効活用④社員参加による低炭素企業への挑戦⑤社会とのコミュニケーションの5項目を掲げる。

「天然水の森」は水資源を「天然水」は全国15都道府県に年産6000万リットルを供給する。水資源を「天然水」は全国15都道府県に年産6000万リットルを供給する。水資源を「天然水」は全国15都道府県に年産6000万リットルを供給する。



植生再生の取り組み

## 地質・地下水の流れ独自に解析

水は深流や湧水のように見えるものもあるが、当然、地下水は見ることはできない。そこで、将来にわたって水を確保するため、包括的な水への理解と知見を深めるために水科学研究所を設置。「水資源を「天然水」は全国15都道府県に年産6000万リットルを供給する。」



サントリー天然水南アルプス工場の前で

## メガソーラー併設、電力事業紹介

## ゆめソーラー館やまなし (甲府市)

県庁の先鞭ともなった施設だ。付随するソーラー館には、太陽光発電の仕組みや二酸化炭素(CO2)排出削減効果の説明など、太陽光をはじめとする再生エネルギーや次世代エネルギーに関する展示をし



県のエネルギー施策を聴講

## エネルギー自給自足、CO2ゼロ運営

天候の影響を受けやすく、不安定な太陽光の電気を水素に変換すれば、変換ロスはあるものの、エネルギーを安定して保てることができる。燃料としても使えるため、「太陽光発電による電気の有効利用が期待できる」(企業局)。

県は水素製造を地域の産業振興にも生かしたいと考えている。すでに、地元のスポートジムや大型店舗から水素使用の了解を得ている。担当者は「今後、水素需要を喚起し、燃料として水素を使う製造業や水素を求めて県内に進出する企業を増やしていきたい」と話す。燃料電池研究で定評のある山梨大学も水素関連プロジェクトに参加しており、産学官連携で新しいエネルギーの時代を築くことが期待されている。



次世代フライホイール蓄電システムの実証施設

技術研究所と提携し、電気の貯蔵技術開発を進めている。また、第2弾として、県内に工場のある東京大学発のベンチャー企業エクセルギィ・パワー・システムズ(東京都文京区)と、急速充放電が可能で改良型ニッケル水素電池を採用し、太陽光発電の出力変動を吸収する試験を16年11月にスタートしている。

## フィールドワーク 山梨県

グリーンフォーラム21の資源循環技術委員会(水戸部啓一委員長)は、再生可能エネルギー発電事業の優等生・山梨県企業局と同県北杜市で豊かな水源を守り、育てながら操業するサントリー天然水南アルプス工場を視察した。



GREEN FORUM 21

山梨県企業局による電力事業を周知するための拠点、「ゆめソーラー館やまなし」(甲府市)は、2012年1月に開館した。この



燃料電池と固体高分子型水素製造装置など

## 環境が企業価値向上のカギ

日刊工業新聞社が主宰する「グリーンフォーラム21」は、産業界として地球環境保全に取り組むことを目的として1991年に設立された研究会です。有識者や行政関係者らの協力を得て、環境情報の収集・調査・研究、新聞やインターネットによる情報発信、環境事業の広報のサポートなどを展開しています。「環境が企業価値向上のカギ」を掲げて活動し、低炭素・循環型の経済社会システムの構築を目指しています。



GREEN FORUM 21

旭化成/NEC/大阪ガス/Jパワー/住友ゴム工業/東レ/トヨタ自動車/日本製紙/パナソニック/ブリヂストン/ホンダ(2019年度会員)